

- | | | | |
|---|------|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災と原発事故関連の特別講義を実施 ・AES(Audio Engineering Society)フェローシップ受賞 ・日本高等教育評価機構より大学評価基準認定 | P. 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済学特殊講義開催 ・比較文化論 四日市のシンボル「大入道」に学ぶ ・ボランティア部へ地域からの要請相次ぐ | P. 3 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災における災害ボランティア活動 ・四日市地域の一斉大気汚染調査結果まとまる ・平成22年度卒業記念樹および記念石碑の受領式 | P. 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・東海学生ソフトテニス選手権大会優勝 ・ゴルフ部の荒木さんが全国大会出場 ・サッカー部、東海学生選手権大会で3位 ・硬式野球部、三重県リーグ春季新人戦優勝 | P. 4 |

東日本大震災と原発事故関連の特別講義を実施

2011年5月20日(金)、環境情報学部主催の「東日本大震災と福島第一原発事故に関連した特別講義」が開催された。講義は一般公開で行われ、会場となった9101教室には約60名の方々が集まった。講義内容は「原子力発電所を全て止めた場合に電力は足りるのか」(新田義孝教授・環境情報学部)、「放射能汚染と環境影響」(高橋正昭教授・環境情報学部)、「学生とともに津波被災地でのボランティア活動に参加して」(鬼頭浩文教授・総合政策学部)の3名の教員が各30分、合計90分の講義として行われた。

内容に対して講義時間が短く、聴講された方々に十分な情報を伝えられなかった部分もあったが、講義後には熱心な質問や意見交換も行われた。質問・意見としては「送電・発電を分離して、電力会社以外が所有する自家発電機器を動かせば、電力は足りるのではないか。」「再生可能エネルギーの利用は、何故進まないのか。」「放射線ホルミシス効果についてどう考えるか。」「学生ボランティアは大学の支援を受けられるが、一般ボランティアにもそのような配慮が欲しい。」などがあつた。講師陣は、それらの質問に真剣に答えていた。また、講義時に配布されたアンケートにもいろいろな意見が寄せられた。講義終了後、鬼頭浩文教授(総合政策学部)を中心とするボランティア活動グループは救援活動のため、宮城県に向けて出発した。(ボランティアについては、本ピックアップP2で紹介)なお、この講義は、環境情報学部の木村眞知子ゼミがビデオに収録。また、CTYの取材を受け5月27日(金)のニュースエリア便で放送された。



AES(Audio Engineering Society)フェローシップ®受賞

環境情報学部の豊島政実教授がこの度、AES(Audio Engineering Society)フェローシップを受賞した。AESは、1948年にアメリカにおいて創設された、プロオーディオに興味がある個人を会員とする世界的な学会で、オーディオに関する規格の制定を行う権威ある学会。その中で音響技術に貢献した者に与えられるフェローシップを受賞。受賞理由は卓越した技術によりロンドンのアビーロードスタジオをはじめとする国内外の多くのスタジオ設計を行い、建築音響の分野に大きく貢献したというものである。

日本高等教育評価機構より大学評価基準認定

四日市大学は、2010年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、2011年3月25日付で同機構が定める大学評価基準を満たしていると認定された。認定期間は、2010年4月1日から2017年3月31日までの7年間。評価結果については、財団法人日本高等教育評価機構のホームページ及び本学ホームページにて公表している。

東日本大震災における災害ボランティア活動

東日本大震災後に発足した「四日市東日本大震災支援の会」は、四日市大学の学生と教職員で構成するボランティア団体。震災後これまでに3度（第1回は5/1～5/5、第2回は5/20～23、第3回は6/3～6/6）、現地にてボランティア活動を行っている。ボランティア活動は、宮城県の社会福祉協議会が受け入れているボランティアバスパックの制度を利用し、東松島市の大曲地区を拠点に行った。大学からの支援や企業からの支援提供などがあり実現した。作業の中心は、耐震強度が確認済みとなった家屋から、大量のゴミと泥をかき出す作業。これにより、住宅の復旧が可能となり、避難所生活から脱却できることになる。参加した学生たちは、「みんな普段はしない作業なので腰や腕など筋肉痛などがありましたが、被災地の困っている皆さんのことを思うと、気が付くと体力と精神力の限界まで作業をしている。」と話す。被災地は、まだまだボランティアが大量に必要な状態。被災者の方々は、家が津波の被害を受けているため、避難所で生活しながら、懸命に片付け作業をしている。ボランティアの参加者は、今後も私達にできる活動を積極的にしていきたいと語る。



四日市地域の一斉大気汚染調査結果まとまる

四日市大学大気汚染調査研究会(代表：武本行正・環境情報学部)は、2010年12月に四日市周辺のNO₂濃度の一斉観測を実施した。四日市商業、四日市中央工業、四日市農芸の高校生や市内の環境団体の方などの協力を得て、幹線道路や住宅街の一般道路の近くに小型の測定カプセルを24時間放置し、カプセル内の濾紙にしみ込んだNO₂量を測定。測定値の最大は0.0520ppm(1日平均)、最小は0.0028ppm。この最大値は四日市市納屋町の国道23号線沿線の地点で得られたもので、近くの納屋測定局(三重県の一般環境測定局)の年平均値は常に県の基準(0.02ppm以下)を超過しており、今回の観測でも同様の汚染状況が確認された。調査結果から、高濃度の値は主要道路(東名阪自動車道、国道1号線、国道23号線、ミルクロードなど)沿いに集中しており、この原因は主にディーゼル車の影響と考えられる。また、北から南下してくる1号線と23号線沿いの汚染が、164号線(四日市中心部で1号線と23号線を結ぶ)と25号線(塩浜地区と小古曾を結ぶ)を經由して、1号線の石薬師近辺の汚染へと繋がっていく様子が観察された。四日市を離れて南下する23号線は測定点がないこともあるが、トラックの通行量は減少することから、鈴鹿川以南では汚染は減るとみられる。研究会は、今後も観測を継続して経年変化などを調査するとともに、コンビナートの影響や他の大気汚染(浮遊微粒子、オキシダントなど)の状況についても検討してゆく計画。

平成22年度卒業記念樹および記念石碑の受領式

平成22年度の学位記授与式は、3月11日(金)に発生した東日本大震災の4日後、3月15日(火)に行われた。本学学生に人的な被害はなかったが、卒業式に欠席せざるを得ない卒業生が2名いた。また、例年行われている卒業生から大学への卒業寄贈品については、急遽その費用を義援金等に使用したいと、卒業生からの提案があった。大学では、その意志を汲んで50万円を義援金とし、残額で卒業記念植樹(常緑やまぼうし)及び卒業記念と東日本大震災を記憶に留めるための記念石碑を学内に設置した。この度、両工事が終了したことから受領式が執り行われた。受領式では、平成22年度卒業生の代理として、今年度の学友会会長である吉兼知未さん(環境情報学部2年生)から、卒業生の意志を汲んで学生生活の充実と大震災復興への貢献を誓う言葉、そして目録が宗村南男学長に手渡された。この様子は、中日新聞と伊勢新聞でも紹介された。

経済学特殊講義開催

経済学部では、経済学科と経営学科が交互に隔年で特殊講義を実施しており、今年は経済学科が担当。『「地域」と「世界」のつながり』をテーマに講義が行われている。前期は、「世界」の中の「地域」に目を向けて、「金融・流通」「資源・エネルギー」「外国人労働者」「治安・安全保障」の4つのテーマについてその現状と課題を考えている。5月11日（水）には、「輸入食品と食の安全」について、マックスバリュ中部・CS推進部長の伊藤真由美氏に。5月25日（水）には、「資源・エネルギー」の観点から、「石油とコンビナート」について、岐阜大学教授の富樫幸一氏に。6月8日（水）には、「治安・安全保障」の観点から、「麻薬問題」について、名古屋大学大学院教授の二村久則氏にお話しいただいた。

この特殊講義は、地域市民の方にも公開され毎回、聴講者の参加も多い。講義の最後には質疑応答などが行われる。一般市民の方からも鋭い質問が飛び出し、学生たちにも大いに刺激となっているようだ。特殊講義は12月まで続く。

比較文化論 四日市のシンボル「大入道」に学ぶ

「地域に学び、地域で学ぶ」をモットーとする総合政策学部では、四日市のシンボルとなっている「大入道山車」の巡行を手伝う講座を4年間開講している。今年の受講生は7人だが、これまで、大四日市祭の歴史や課題、復活した岩戸山車山の苦労話などを聞いている。

6月7日（火）の講義では、大入道山車保存会の家城さんに、首が伸びる原理やからくりの工夫について講義いただいた。家城さんから、大入道の首の部分に入っている、セミクジラの髭を手にして学生たちに見せられると、学生たちは、想像よりも大きな髭に驚いていた。今後、7月には、大入道の組み立てを見学し、8月7日（日）には、揃いの法被と鉢巻をして、大入道山車の巡行の手伝いをする予定。

後学期には、昨年に引き続き、三岐鉄道北勢線のクリスマス電車のイベントをさらに盛り上げようとする講座や、四日市トンテキを全国に売り出し、姫路で行われるB級グルメ全国大会での優勝を目指す講座が、展開される予定。地域とともに発展する四日市大学ならではの取り組みである。



ボランティア部へ地域からの要請相次ぐ

本年3月、ボランティア部が発足し、総合政策学部を中心に次第に参加者の輪が広がってきた。3月の発足直後に三重県主催の「子育て応援！わくわくフェスタ」の協力をしたことから、四日市大学にボランティア部ができたということが口コミで広がり、NPOや行政からの活動依頼が相次いでいる。

現在来ている依頼は、子どもの育ちを支援するNPOからキャンプの手伝い、子どもの悩み電話相談（チャイルドライン）の相談者としての参画、障がいがある人を支援するNPOから畑の作業の手伝いとイベントの協力、四日市市民活動センターから市民との草刈り作業、社会貢献人材バンクから運営委員会への参画、四日市市港管理組合から秋のみなと祭りの企画づくり、三重県からイベント時のゆるキャラの着ぐるみ協力などなど。このことを聞きつけた新聞社からの取材もあった。

外部からの依頼だけでなく、大学内での自主的なボランティア活動もやろうと、大学内にアンケート箱を置いてニーズ調査を行った。これまでクラブ部室の掃除手伝い、喫煙コーナーでの喫煙マナー厳守のポスター作成など、地道な活動を行ってきている。

さまざまな社会体験を積みながら、四日市大学の学生たちは、日々世界を広げ、たくましく育っている。

東海学生ソフトテニス選手権大会優勝

ソフトテニス部は5月24日(火)、25日(水)に四日市ドームにて開催された「第63回東海学生ソフトテニス選手権大会」で、長岡 渉さん(総合政策学部4年生)・田中博之さん(総合政策学部3年生)ペアが県内男子では、初の優勝を飾った。63回の歴史の中で三重県内の大学が優勝するのは、男子では初の快挙となった。長岡さんは山形市立商業高校出身、田中さんは大阪上宮高校出身でともに四日市大学でソフトテニスを頑張りたいと入学し、尾崎和章監督の指導のもと、着実に実力を付け、今大会の優勝に繋がった。試合後2人は、「6月下旬の西日本学生大会と8月の全日本学生大会で上位進出を狙いたい。」と決意を語った。



ゴルフ部の荒木さんが全国大会出場

日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技で荒木彰崇さん(経済学部2年生)が、6月8日(水)から始まる第45回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技に出場の権利を得た。ゴルフ部始まって以来の素晴らしい結果で、荒木さんに大きな期待が寄せられた。パブリックアマチュア選手権は、アマチュアゴルファーにとってトップアマへの登竜門であり、4月の予選、5月の中部日本地区決勝(名古屋広幡ゴルフコース)を勝ち上がり、兵庫県加東市にあるグランドオークゴルフクラブで2日間にわたる全国大会(6月8日・9日)への出場資格を与えられた。荒木さんは「初めて出場する全国大会ですが上位目指して頑張ります。」と抱負を語った。

サッカー部、東海学生選手権で3位

5月にサッカー部は、大学サッカー日本一を決める総理大臣杯東海予選(東海学生サッカー選手権)に出場し、見事3位の結果を残した。いずれも強豪ばかりで、2回戦では、静岡産業大学に2対1で、創部以来の初勝利。準々決勝では、愛知学院に3対2で勝利。準決勝では昨年全国2位の中京大学に先制したものの、後半に逆転を許し1対2で惜敗。あと一步のところまで全国大会出場を逃したが、2005年以来となる3位の成績を残した。

硬式野球部、三重県リーグ春季新人戦優勝

6月4日(土)、5日(日)に三重大学野球場において2011年三重県リーグ春季新人戦が行われた。その結果、1回戦で皇學館大学と対戦し、11対4(7回コールド)、決勝戦では三重大学に10対0(5回コールド)で勝利。当野球部は、創部以来初の公式戦優勝を飾った。なお、今回2名の選手が個人賞を受賞。最優秀選手賞には、飯田基貴さん(総合政策学部2年生)、首位打者(打率6割)には、森崎智和さん(総合政策学部2年生)。2人は、「リーグ戦では思うような結果が残せませんでした。この優勝をバネに秋季リーグ戦では優勝を目指したい」と来シーズンへの意気込みを語った。



これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

または、四日市大学トッパー大学案内→
ピックアップ・トピックスをご覧ください。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200
TEL059-365-6711 FAX059-365-6630